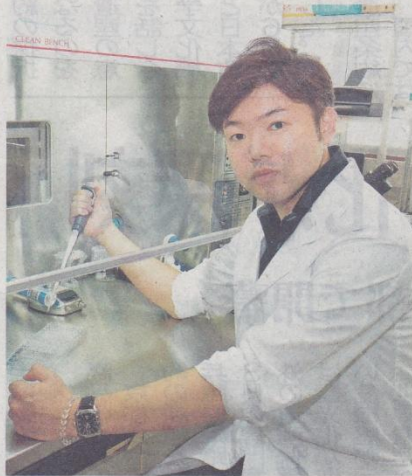


# 筋肉が壊死する感染症

## ガス壊疽原因分子発見



ガス壊疽の発症原因を突き止めた文理大の小田講師＝同大

徳島文理大 小田講師ら

載された。ガス壊疽は、土中などに広く分布するウェルシユ菌が作るα毒素が細胞膜に取り付いて炎症を起す。しかしα毒素が細胞膜のどの分子に作用するに広がるかは分かっていなかった。膜のどの分子に作用するα毒素が活性化することを解明した。

徳島文理大学薬学部の小田真隆講師（微生物学）の研究グループが、筋肉が壊死する感染症・ガス壊疽を発症させる原因分子を突き止めた。予防薬の開発につながる発見という。研究成果は、米国の生化学・分子生物学会のホームページに掲載された。小田講師らは4年前、細胞膜中のタンパク質が活性化しガス壊疽を発症することを明らかにした。24種類の化合物のうち「GMI」と呼ばれる糖脂質分子の化合物とα毒素が結合する。反応を観察した。2008年の中国・四川大地震では四川省で50人以上が発症した。感染すると、激しい痛みと腫れを伴い、患部から腐敗が発生。手足の切断が必要となることもある。

## 予防薬開発に期待

(大家東代)